

農業分野における農業者・関係者参加型 労働災害防止の方法

<報告内容>

本報告は、平成30年度JA奨励研究「GAP推進による農業者所得拡大と労働安全確保に関するビジネスモデルとその戦略的実践システムの開発」の成果を取りまとめたものである。

主たる研究内容は、「GAPと農作業安全にかかるJA組織のアンケート調査結果」「先進的にGAPに取り組むJA組織と部会の事例とその意義」「GAPによる労働安全活動展開のための参加型戦略的手法の開発」から構成される。

門間敏幸（東京農業大学名誉教授）
北田紀久雄（日本農業労災学会会長・
東京農業大学元教授）
半杭真一（東京農業大学 准教授）
兼高秀樹（JA大分県中央会）
小原 稔（JA福島県中央会）

本報告の目的と課題

<研究目的>

- わが国における**農作業事故防止**を、組織的にかつ多くの農家が参加して運動論ではなく実効性をもった活動として実践できる方法は**GAPしかない**。特に農協が主導して作物生産部会等の組織を動員して実践できる**GAPの団体認証取得のための活動の有効性**は大きい。
- そのため、本研究は、**JA組織におけるGAP推進活動**を取り上げ、**労働安全確保と産地ブランド形成に関する取り組みの実態と課題**を解明するとともに、**GAPの戦略的な実践システムの開発**を試みた。

<研究課題>

本調査研究では、以上の研究目的を達成するため、以下の研究課題の解明を試みた。

課題1 – JA組織によるGAP推進と労働安全確保の取り組み実態と課題の整理

JA組織によるGAP推進と労働安全確保の取り組み実態について全国のJA組織に対するアンケート調査で解明するとともに、その課題を整理する。

課題2 – 先進的にGAPに取り組むJA組織の事例とその意義

実態調査を実施した大分県、福島県、鹿児島県、静岡県、茨城県の各JA組織におけるGAPの取り組みの実態とその意義を整理する。

課題3 – JA組織におけるGAPによる労働安全活動展開のための戦略的手法の開発

バランススコアカード（BSC）を活用した戦略的労働安全活動の実践・評価を支援するための方法を開発する。

労働安全におけるGAPの戦略的活用の意義

● 雇用型農業法人などの労働安全におけるGAPの戦略的活用の意義

- ① 従業員や家族を**事故から守る**のは経営者としての最重要の責務
- ② GAPは労働安全のリスク発見・リスク防止ルールや手段を体系的に整備して、**経営体の労働環境の改善**に大きく貢献できる。
- ③ GAPに基づく労働安全活動は、従業員の仕事に対する意欲・責任感や自主性、業務改善に対する意欲、従業員と経営者、従業員同士の相互理解と意思疎通を良くする等、**労務管理の効果**が大きい。

● 高齢農家、兼業農家を含む家族農業経営の労働安全におけるGAPの意義

- ① **JAや普及指導組織**による**団体認証**に取り組むことにより、労働災害リスクが最も高い階層でかつ労働安全に対する自主的な取り組みの**インセンティブが働かない階層の労働安全**に組織的に取り組むことができる。
- ② **多くの農家が参加**することにより、労働安全に関する広範なリスクが探索され、**多様な防止対策がルール化**される。個々の農家はそれらの広範なリスク、対策の中から、**自らの経営に適合するものを自主的に選択**して実践することができる。

労働安全におけるJAによる団体認証の意義

- **GAPは具体的な営農指導**であるという捉え方が重要であり、これまでのJAや普及による営農指導の延長線上にある。
- GAPが指示する最低限の規準と管理点に従って、営農指導を体系的かつ**生産者と部会事務局**との間での明確な**責任分担**の体制の中で実施できる。
- JAの部会事務局は、それぞれの生産者が抱える**営農上の問題と克服方策を体系的に把握**することができる。



出所: 魚沼WEBニュース、2014.8

GAPに関するJA調査の目的と概要

調査の目的

JAの指導事業や販売事業は、GAPの効果として期待される農業経営の改善や効率化、また、消費者や実需者の信頼の確保といった事柄と深く結びついている。

JAグループがGAPをどのように捉えているのか調査することによって、GAPが今後どのように農業経営を変えていくのか、農作業安全の方法を考える上で重要である。

表1 調査概要

名称	GAPと農作業安全にかかる調査
対象	都道府県中央会または経済連等のJAグループにおいてGAPを推進する県段階の組織
期間	2019年6月から9月
項目	(1) GAP（グローバルGAP、ASIAGAP、JGAP、県GAP）の取り組み状況と今後の見通し (2) 農作業安全の推進において実施している取り組み (3) GAPが農作業安全に与える影響 (4) 個別の農業経営においてGAPに期待する効果 (5) GAP推進において、行政機関（国、県等）や流通業者（卸売市場、流通業者、小売業者等）に期待すること (6) その他（地域の概要や課題等）

有効回答JA数：31

JA調査結果 1 農作業安全の推進課題と取り組み

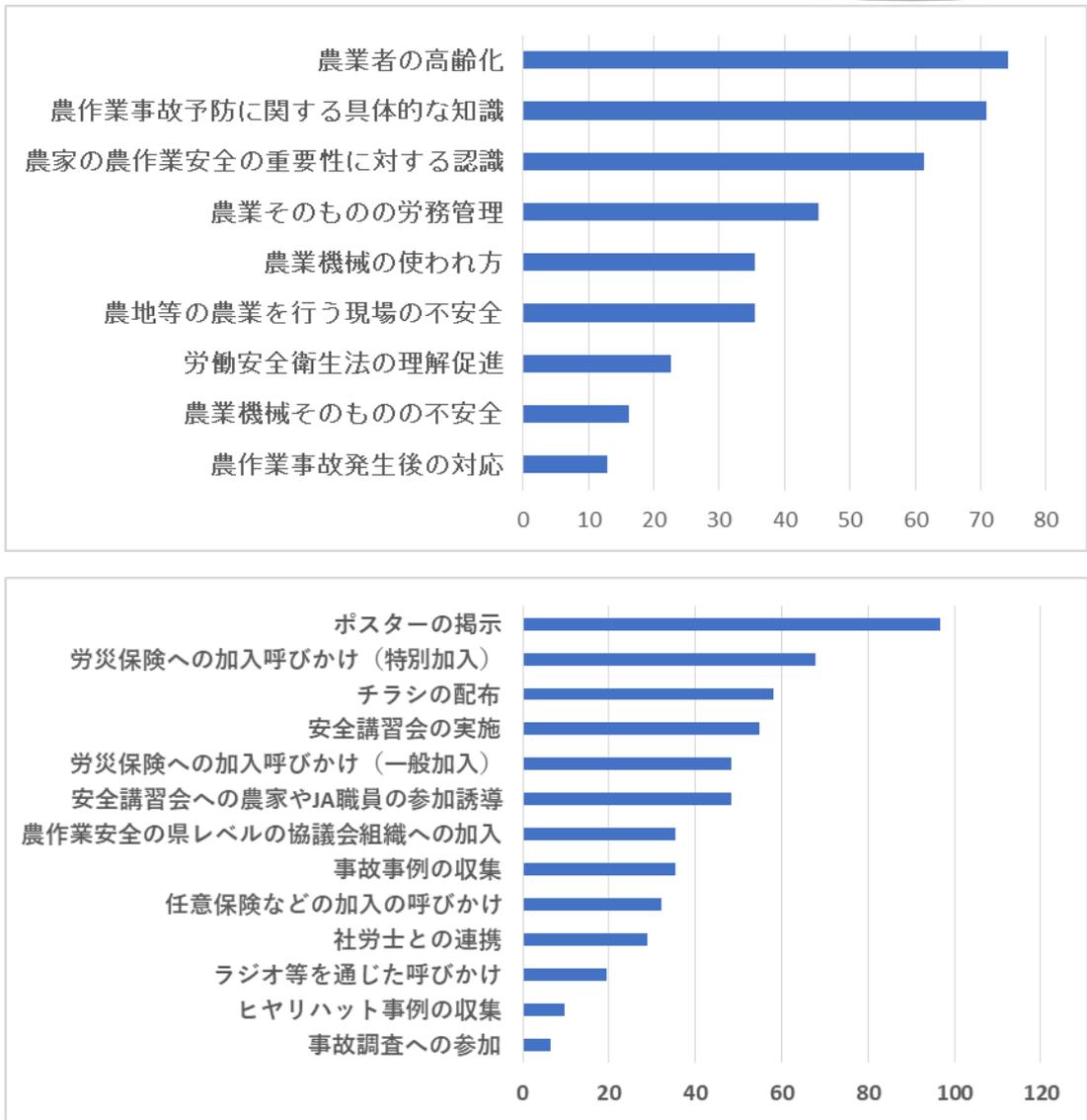


図 1 農作業安全の推進において重要だと思われる点と取り組み

調査結果 2 GAPが農作業安全に与える影響と期待する効果

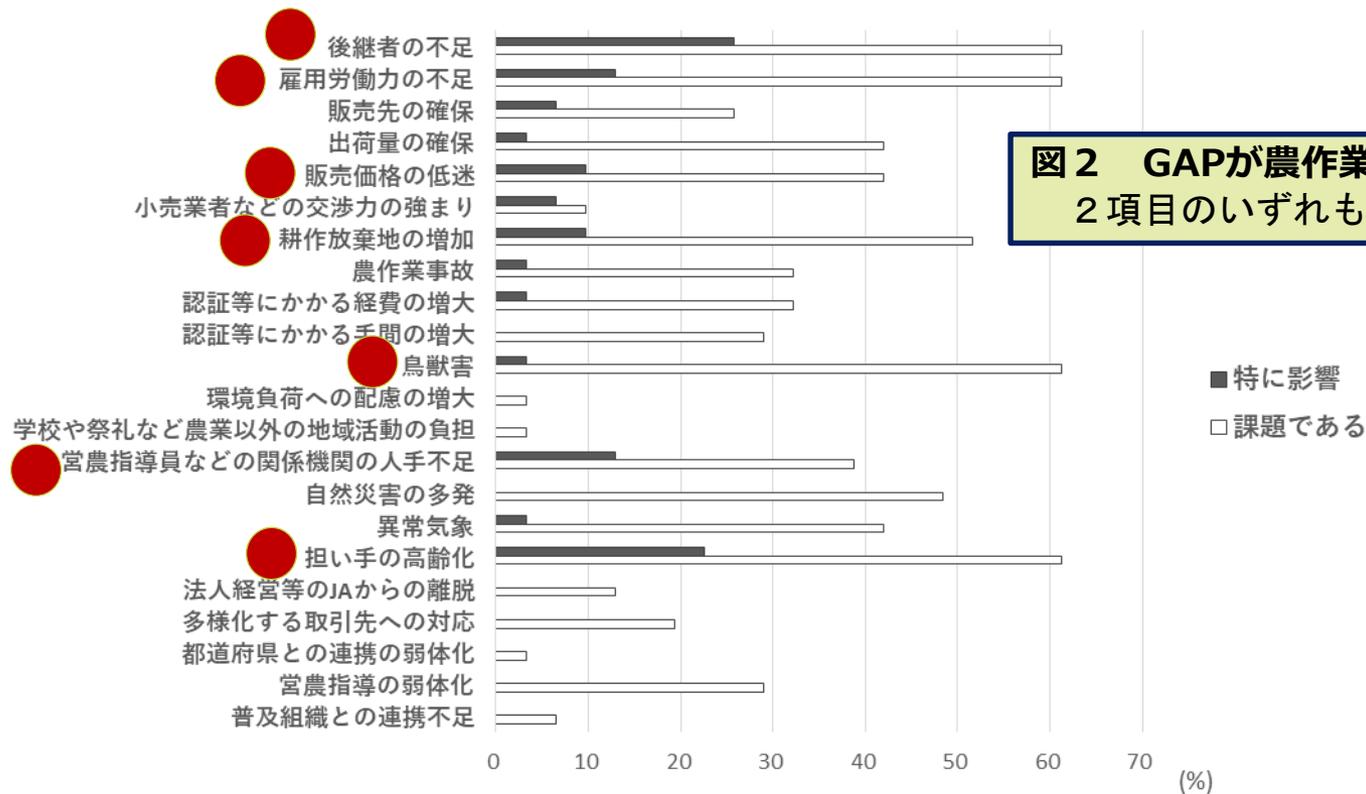
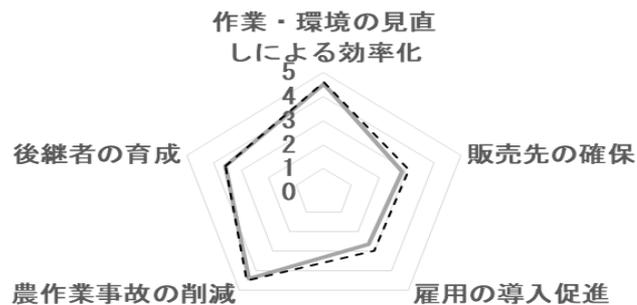


図2 GAPが農作業安全に与える影響
2項目のいずれも評価が高い項目

図2 GAPに期待する効果
(平均値)



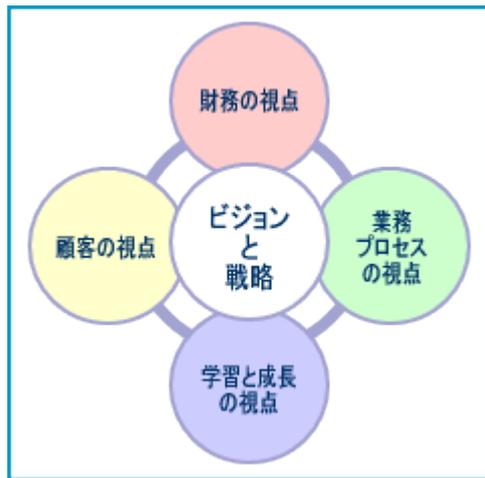
調査対象とした5JAグループのGAPの取り組み概要（1）

	大分県JAグループ	福島県JAグループ	鹿児島県JAグループ	静岡県JAグループ	茨城県JAグループ
取組開始年	平成23年度	平成29年	平成16年	平成18年	平成18年
きっかけ	残留農薬事故発生	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の発生 ・福島ブランドの回復 ・オリ・パラ対応 	鹿児島県における食の安全・安心確保施策の一環としてGAP導入	静岡県産の農林水産物に対する県民の信頼確保を目指す	「エコ農業茨城」を全県的に推進し、茨城県農業・農村・農産物の良好なイメージの向上
主たるGAPのタイプ	JGAP団体認証（平成24年、JAおおいた・いちご部会から始まる）	JGAP 福島県GAPはJGAPの補完	鹿児島県GAP（K-GAP）	静岡県GAP（しずおか認証）	茨城県GAP 平成29年12月日から、「茨城県GAP第三者確認制度」の運用開始（オリ・パラ対応）
GAP導入の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・いちごのパック詰め労力の軽減 ・経営費の大幅削減 ・部会の活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人を中心にGAP導入 ・オリ・パラへの福島県産農産物の提供意欲の向上 ・風評を払拭した信頼性の高い産地づくりの推進 	GAP普及大賞2017を受賞。その選定理由としては、JAグループの連携による圧倒的なスケールでのGAP普及	しずおか認証は野菜、果実中心、他のGAPではお茶が中心	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から国際水準のGAP指導員（研修修了者：68名）を育成 ・オリ・パラ農産物利用推進検討会（構成：県及びJA等関係団体）で戦略品目の選定、茨城県GAP第三者確認制度を推進
認証費用の軽減、その他の活動展開	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年9月に3団体を統一した「JAおおいたGAP研究会」を設立 ・平成30年度には1人あたりの審査費用を13,000円／年まで低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやDVD、支援資材等を作成し、GAP認証の取り組みを推進 ・県下5JAで団体認証取得の取り組み展開 	審査料は、①4戸以上の構成団体：1,650円/戸、②3戸以下の構成団体：5,500円/団体、③個人・法人（面積別料金設定）：5,500円～/戸	県段階JA組織のGAPへの主な取り組み（平成30年度実績）：①GAP推進研究集会の開催、②GAP指導支援システムの導入、③GAP実践マニュアルの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本GAP規範」に基づく農場評価制度である「GH評価制度」を導入 ・平成25年にエコ・リードという農業分野で外国人技能実習生を受け入れる事業協同組合を設立（JAの管理団体）

調査対象とした5JAグループのGAPの取り組み概要（2）

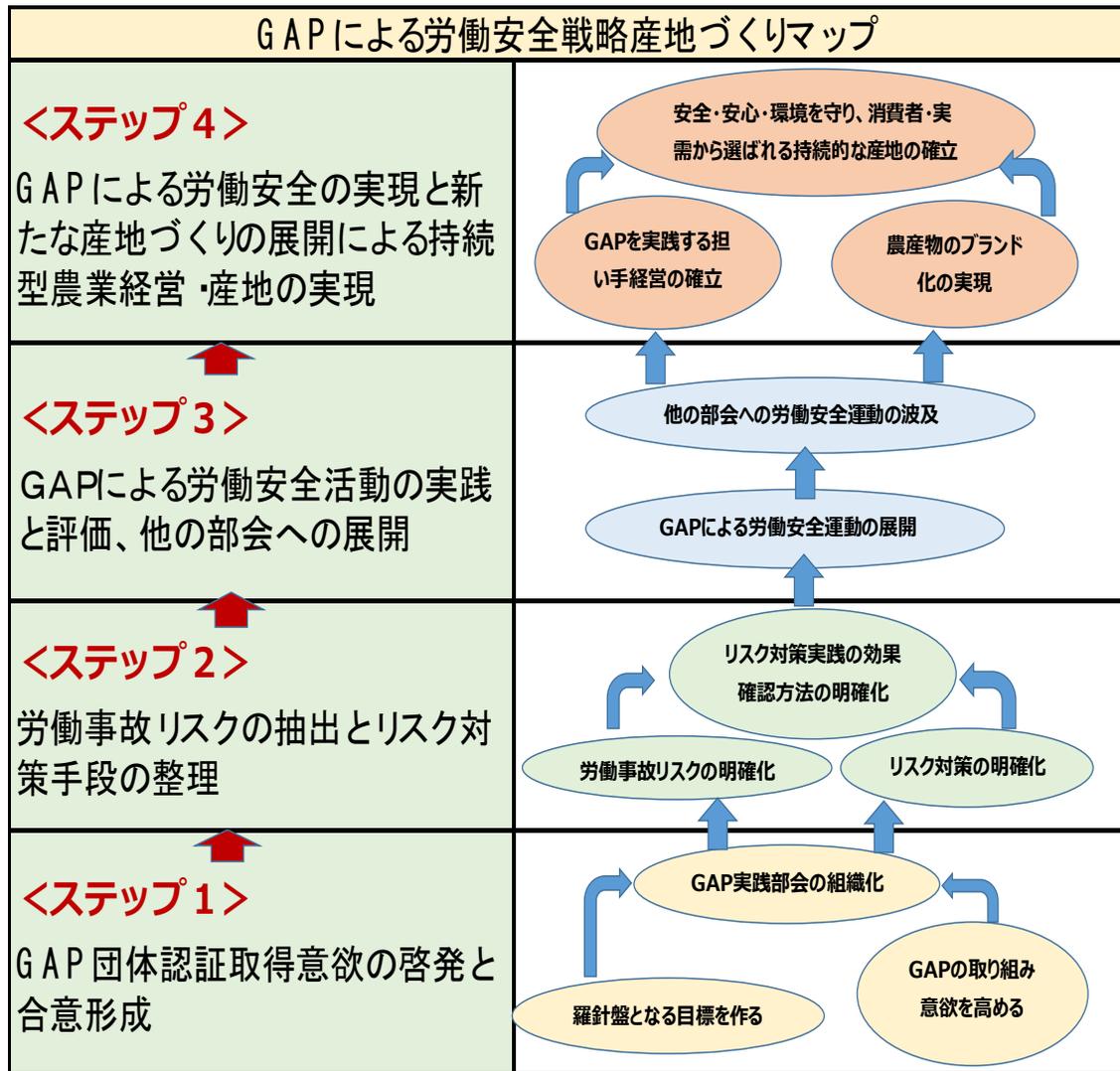
	大分県JAグループ	福島県JAグループ	鹿児島県JAグループ	静岡県JAグループ	茨城県JAグループ
GAP認証取得状況	JAおおいたGAP研究会：構成78戸、面積100ha、認証品目：柑橘、みつば、いちご、大葉、白ねぎ、七草	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の177件の認証取得の品目数は63品目、栽培面積は1,430ha JA支援認証は45件（団体認証17件） 	令和元年10月現在の認証状況：66品目、276団体：個人、327件、延べ8,945戸	平成30年12月末現在の認証状況 <ul style="list-style-type: none"> 静岡認証：92件、1,132経営体 JGAP、ASIAGAP：97件、1,730経営体 GLOBALGAP：5件、140農場 	令和元年11月現在の登録者は19件（個人が8人、団体が11）。品目では、野菜13件、果樹4件、穀類2件
GAPにおける労働安全の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 農作業安全及び労災保険講習会開催（毎年） GAP研究会に所属する会員の農場では農作業事故は発生していない 	農作業事故を組織的に防ぐためにGAP（生産工程管理）の手法を活用することを意思統一	<ul style="list-style-type: none"> 労災加入者数：22年の119人から30年の1,453人に増大。しかし、事故は減少していない。 K-GAPの加入時に農作業安全対策講習などについてかなり詳細なチェック項目を設定 	静岡農林水産物認証制度における茶の認証基準では、危険作業の把握、作業環境の改善、機械施設の安全管理などについてかなり詳細なチェック項目を設定	<ul style="list-style-type: none"> GHリスク評価制度は、危険性の状況を確認して対策を講じるという点で有効 農作業安全に対する農家の意識は、GAPに取り組むことによって高まっている。
ブランド産地づくり	<ul style="list-style-type: none"> 大手量販店への継続的な出荷 柑橘の優位販売 みつばの出荷資材マーク印字による差別化 梨の海外輸出 	京浜市場や福島市内量販店、JA直売所においてGAP認証取得農産物の販売ブースを設置し、消費者へのGAP認証農産物のPRを実施	<ul style="list-style-type: none"> イオンなどのスーパーでK-GAPコーナーを設置 「かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）」PR協力店の紹介 	農業者のGAP理解の不足、食品事業者、小売・流通業者、消費者のGAP認知度は低い。しずおか認証の制度とマークを知っている人は9.2%にとどまる	GAPを基盤としたマーケティング研究会活動による農産物のブランド化の実践

GAPによる労働安全活動の バランススコアカード(BSC)モデル



GAPによる労働安全活動に変換

出所：バランススコアカードナビ
<https://www.itl-net.com/bsc/bsc3.html>



労働安全戦略に関するBSCモデル

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ4> GAPによる労働安全の実現と新たな産地づくりの展開による持続型農業経営・産地の実現</p>	<p><労働事故ゼロ、地域の生産・生活環境を守り安全な農産物を持続的に生産する地域農業の実現></p> <p><市場、実需者、販売組織、消費者等、多様な顧客との継続・安定取引ができる産地の実現></p> <p><多様な顧客に責任をもって農産物を供給できる経営者の確保></p>	<p><目標達成指標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) GAP団体認証の持続的取得 2) 労働事故ゼロ 3) 安定取引先の確保 (〇組織) 4) GAP認証取得の有利性の実現(選ばれる産地となる)。産地ブランドの確立 5) GAPの取り組みを自主的に実施できる経営者の確保(〇人) 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 審査・登録料の低減方策の検討 ◆ GAPの取り組みによる農産物の品質向上(ブランド条件の設定)による選ばれる産地の実現 ◆ 産地の取り組みのPR活動の展開 ◆ GAP実践優良経営の表彰 ◆ 労働事故ゼロ部会、労災保険加入優良部会を表彰
<p><ステップ3> GAPによる労働安全活動の実践と評価、他の部会への展開</p>	<p><GAPを基本とした持続的労働安全運動の展開と取り組みの拡大></p> <p><取り組みを他の部会にも拡大する></p>	<p><目標達成評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 継続的な認証取得と労働事故防止・軽減の実現 <ol style="list-style-type: none"> 1位: 死亡事故ゼロ 2位: 毎年、事故件数を半減させる 3位: 労災保険加入促進 <ul style="list-style-type: none"> ◆ GAP団体認証取得を目指す部会名(〇〇部会、〇〇部会等) 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 参加農家の巡回指導(年〇回) ◆ 労働安全講習会の開催(年〇回) ◆ ヒヤリハット発表会(半年1回)ー労働安全点検運動に合わせて実施 ◆ 労災保険加入説明会開催(年2回) ◆ GAP実践を目指す部会への説明と説得(随時行う)
<p><ステップ2> 労働事故リスクの抽出とリスク対策手段の整理</p>	<p><参加農場ごとに労働事故リスクを明確にする></p> <p><事故の発生頻度と重篤度を明確にする></p> <p><リスク対策を明らかにする></p> <p><リスク対策実施の確認方法の明確化></p>	<p><目標達成評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 参加農場ごとのリスクと発生頻度のリストアップ(全農場) ◆ 事故発生時の重篤度評価(全事故) ◆ 事故の防止・軽減対策のリストアップと実施課題を整理(すべての事故対策) ◆ 労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアル開発 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ワークショップ、ブレインストーミング(開催時期と回数) ◆ TN法によるリスクの特性評価 ◆ TN法による事故防止・軽減対策の有効性評価 ◆ TN法分析結果に基づく労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアルの作成(事務局) ◆ 部会員による承認
<p><ステップ1> GAP団体認証取得意欲の啓発と合意形成</p>	<p><産地づくり目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 羅針盤となる目標を作る <p><部会員の意欲向上戦略></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ GAPの取り組み意欲を高める <p><GAP団体認証組織づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ GAP団体認証に取り組む部会を組織化する 	<p><目標達成評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 部会員のGAPの認知率(%)、 ◆ GAP参加希望農家率(〇%) ◆ GAP団体認証に取り組む部会数 <p>部会1:()</p> <p>部会2:()</p> <p>部会3:()</p>	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 説明会の開催(開催時期と回数) ◆ GAP取り組みの先進地視察 ◆ 部会長の説得 ◆ 部会員の意思確認 ◆ 合意を得た部会員で取り組むか、全員参加で取り組むかの決定

BSCステップ¹ 意欲啓発と合意形成 - 1

GAP団体認証による労働安全実現戦略(ステップ1)

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ1> GAP 団体認証取得意欲の啓発と合意形成</p>	<p><産地づくり目標> ◆羅針盤となる目標を作る <部会員の意欲向上戦略> ◆GAPの取り組み意欲を高める <GAP団体認証組織づくり> ◆GAP団体認証に取り組む部会を組織化する</p>	<p><目標達成評価指標> ◆部会員のGAPの認知率(%)、 ◆GAP参加希望農家率(〇%) ◆GAP団体認証に取り組む部会数 部会1:() 部会2:() 部会3:()</p>	<p><アクションの内容> ◆説明会の開催(開催時期と回数) ◆GAP取り組みの先進地視察 ◆部会長の説得 ◆部会員の意思確認 ◆合意を得た部会員で取り組むか、全員参加で取り組むかの決定</p>

第1ステップ-GAP団体認証チャレンジへの合意形成

この段階は、団体認証取得に取り組むための部会農家の参加に関する**合意形成の確保**に関わる取り組みである。ここでは、次のような行動を展開することが重要である。

- **GAP認証取得の意義**の説明(生産者のメリット、産地としてのメリット、何を目標にするか、を明確に伝える)
- 生産者の**不安や問題意識の把握**とその解消
- 取り組みに当たっての関係機関(JAと普及等)と生産者の**役割分担の明確化による過剰な負担意識の軽減**
- 現在および将来の**コスト負担の見通し**の説明

BSCステップ^o 1 意欲啓発と合意形成- 2

- 実践事例 -

第1ステップー実践事例での合意形成実現上の工夫 (JAおおいた)

- ◆**高齢者に如何にわかりやすく**伝えるか（マニュアル、記帳方法など）ー図の多用、文字を大きく、生産者が慣れたやり方、農場の整理整頓から始める
- ◆**審査認証費用の抑制**ー一部会単位の団体を統一して団体事務局の運営の効率化（審査費用を4万円から2万円に削減）
- ◆**GAPのマイナス印象**（難しそう、面倒くさそう、お金がかかりそう）の払拭
- ◆**GAPのプラス印象**（有利販売ができそう、農場管理に役立つ）を高める

BSCステップ^o2 リスク評価の手順

◆リスク評価では、以下のような実施手順が望ましい。

- 1) ブレインストーミング、フィリップス66法などを用いて、**ワークショップ形式でリスクを抽出**する（参加人数が多い場合はグループ分けを行い、参加者が主体的に参加できるようにする。
- 2) 抽出されたリスクについて、その**防止・軽減対策を整理**する。
- 3) 抽出された**リスクの特性**（発生可能性、発生した場合の事故の深刻度、評価者の農場で発生する確率）を評価する。
- 4) **事故防止・被害軽減対策の有効性**（対策の実施効果、対策実施の容易性、対策実施の費用）を評価する。



BSCステップ² リスク対策評価票

部会メンバーが抽出した農業労働安全に関わるリスク防止・軽減対策の評価票

評価者氏名() 年齢(歳) 性別 男性 女性 農場面積(アール)
部会で扱う作物の生産面積(アール)

皆様が提案された事故のリスク防止・軽減対策について、対策の実施効果、対策実施の容易性、対策実施の費用を5段階で評価してください。評価基準(5=とても大きい 4=やや大きい 3=普通 2=やや小さい 1=小さい)を○で囲んでください。

	提案された事故対策	対策の実施効果	対策実施の容易性	対策実施の費用
1	危険作業は必ず複数で行う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
2	危険個所を把握して安全対策を施す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3	誤った機械操作をしないように注意事項を機械に貼り付ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4	転倒危険アラームを機械に取付ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
5	機械に挟まった異物を取り除くときは、機械を止めて行う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
6	草刈り事故防止用具の装備(ゴーグル、手袋、安全靴)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7	複数で行う草刈り作業は離れて行うように場所を指定する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
8	交通法規を守った運転を心がける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
9	事故が起こりやすい時間帯の危険作業は避ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

BSCステップ°2 事故防止活動の体系的整理

- ◆農作業事故のリスクと対策を体系的に整理して一覧図にして、部会員に配布し農場内に掲示するのが効果的。
- ◆目的、大分類、中分類、事故防止対策、活動主体というように分類して整理しておくが効果的。

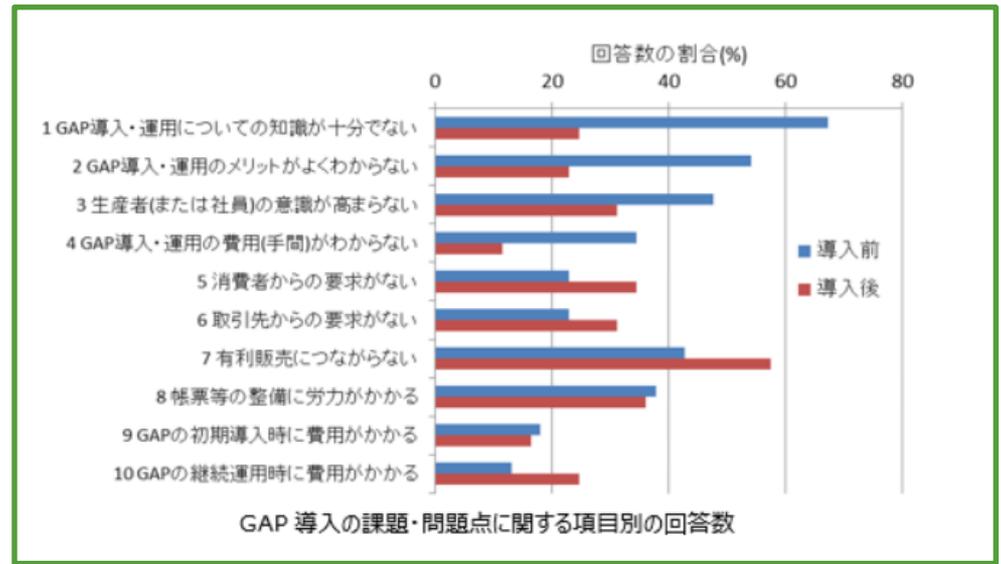
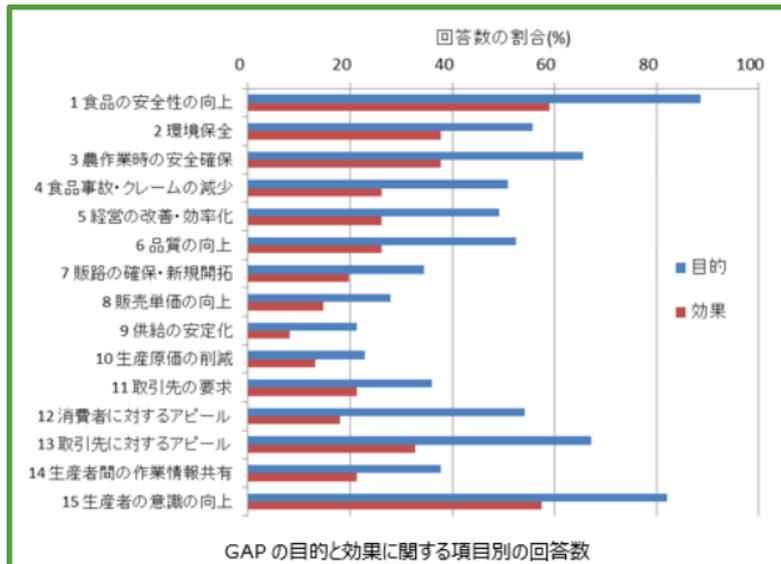


キャッチフレーズ	大分類	中分類	事故防止ためにやること
家族のあなたの笑顔と産地の安全は発展	作業者の労働安全を確保する	危険箇所はわかっていますか	◆圃場の危険箇所のチェックと周知 ◆作業施設の危険箇所のチェックと周知 ◆危険箇所の修理・補修など
		農機具の安全な操作はわかっていますか	◆農機の安全利用講習会への参加 ◆操作マニュアルの常備
		事故やけがの防止対策をしていますか	◆草刈機の安全な使用方法の徹底 ◆トラクタ、コンバインの安全な使用方法の徹底 ◆施設内の整理・整頓
	危険な作業をする人を守る	安全教育・訓練を実施しましたか	◆関係者を安全研修・講習会に参加させる ◆職場内の指導
		必要な資格は取得していますか	◆運転免許を取得させる ◆法令に定められた講習会に参加させる
		未経験者、高齢者等の作業に配慮していますか	◆高齢者への配慮 ◆福祉施設からの作業者への配慮 ◆女性や弱者への配慮
		安全な服装・装備を用意していますか	◆動きやすい作業服の準備 ◆ゴーグル、安全靴の準備
	事故が発生した時に適切な対応をする	事故発生時の連絡網はできていますか	◆病院、救急車などの連絡網 ◆親族・友人などの連絡網 ◆保険会社などの連絡網
		正しい応急措置をできますか	◆応急措置の訓練 ◆応急措置に必要な用具の準備
	事故への備えは大丈夫か	救急箱は用意されていますか	◆救急箱の設置場所の周知 ◆必要な医薬品の用意と補充
		労災保険に加入していますか	◆労災保険への加入 ◆任意保険への加入 ◆その他の補償対策の用意

BSCステップ3 GAP取り組みの持続性実現の課題

GAP団体認証による労働安全実現戦略(ステップ3)

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ3></p> <p>GAPによる労働安全活動の実践と評価、他の部会への展開</p>	<p><GAPを基本とした持続的労働安全運動の展開と取り組みの拡大></p> <p><取り組みを他の部会にも拡大する></p>	<p><目標達成評価指標></p> <p>◆継続的な認証取得と労働事故防止・軽減の実現</p> <p>1位: 死亡事故ゼロ</p> <p>2位: 毎年、事故件数を半減させる</p> <p>3位: 労災保険加入促進</p> <p>◆GAP団体認証取得を目指す部会名(〇〇部会、〇〇部会等)</p>	<p><アクションの内容></p> <p>◆参加農家の巡回指導(年〇回)</p> <p>◆労働安全講習会の開催(年〇回)</p> <p>◆ヒヤリハット発表会(半年1回)ー労働安全点検運動に合わせて実施</p> <p>◆労災保険加入説明会開催(年2回)</p> <p>◆GAP実践を目指す部会への説明と説得(随時行う)</p>



出所：農業ナビゲーション研究所：GAPの導入効果等に関する全国アンケート調査報告による全国63団体の分析結果より、http://www.nnavi.org/gap_jirei/zenkoku/index.htm

BSCステップ^o4 新たな産地と持続的農業経営の実現 – 1 選ばれるブランド産地・経営となるために

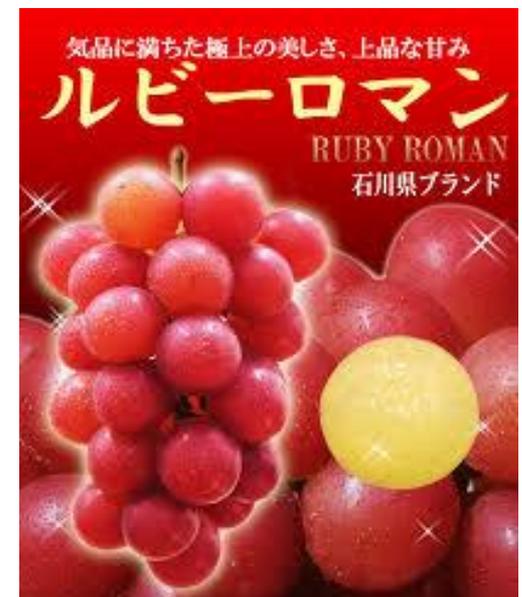
GAP団体認証による労働安全実現戦略(ステップ4)

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ4> GAPによる労働安全の実現と新たな産地づくりの展開による持続型農業経営、産地の実現</p>	<p><労働事故ゼロ、地域の生産・生活環境を守り安全な農産物を持続的に生産する地域農業の実現></p> <p><市場、実需者、販売組織、消費者等、多様な顧客との継続・安定取引ができる産地の実現></p> <p><多様な顧客に責任をもって農産物を供給できる経営者の確保></p>	<p><目標達成指標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) GAP団体認証の持続的取得 2) 労働事故ゼロ 3) 安定取引先の確保 (〇組織) 4) GAP認証取得の有利性の実現(選ばれる産地となる)。産地ブランドの確立 5) GAPの取り組みを自主的に実施できる経営者の確保(〇人) 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 審査・登録料の低減方策の検討 ◆ GAPの取り組みによる農産物の品質向上(ブランド条件の設定)による選ばれる産地の実現 ◆ 産地の取り組みのPR活動の展開 ◆ GAP実践優良経営の表彰 ◆ 労働事故ゼロ部会、労災保険加入優良部会を表彰

◆ **ブランド**とは、生活者が商品・サービスの違いを認識している状態。商品やサービスの差別化を構成するのは、名称、言葉、記号、シンボル、デザイン、あるいはそれらを組み合わせたものと言われているが、農産物では味・品質・香りなどが重要な要素となる。

◆ **ブランド価値**とは、生活者が対価を払っても得たい価値

◆ **ブランディング**とは、ブランドを顧客に認識させるための活動



BSCステップ^o4 新たな産地と持続的農業経営の実現 - 2 選ばれるブランド産地・経営となるために

- ◆GAPの取得が農産物価格の上昇に直接結びつくことはない。しかし、多くの労力をかけてGAP認証を取得した生産者が取引価格の上昇を期待するのは当然である。
- ◆むしろ、産地ブランドづくり、選ばれる産地づくりを積極的に展開すべきである。

(生産局長賞)

JAおおいたGAP研究会
～団体認証の強みを活かし販路拡大・有利販売を実現～

<基本情報>
所在地: 大分県大分市
設立: 平成27年9月
構成戸数: 78戸
<経営概要>
経営面積: 99.7ha (柑橘: 7.9ha, みつば: 5.6ha, いちご: 7.2ha, 大葉: 12.4ha, 白ねぎ: 58.9ha, 七草: 7.7ha)
販売先: 大手量販店など
認証品目: 柑橘(ぼんかん、不知火)、みつば、いちご、大葉、白ねぎ、七草



【従来の2段階めパック】

↓

【1段階めパック】

<団体認証による効果>
【販路拡大】
GAP認証を取得し団体として取引先と協議することにより、
○高単価商品としての販路拡大(糖度等の品質基準も有り)
○西日本全体へ販売エリアが拡大

【有利販売】
出荷規格の交渉もより良い条件で進めることが可能となり、いちごについては、2段階めのパック(7規格)から1段階めのパックへの規格(2規格)に簡素化したことで**生産者のバック詰めの作業効率が2倍以上に効率化**
(H24年度: 7,840g/時間 → H25年度: 15,000g/時間)
・柑橘については、摘果が必要な2L～3Lサイズの規格を摘果が不要な小玉階級への変更が可能となり、H25年度より**生産者の摘果作業が省力化**

<GAPの取組状況>
実践段階で分かりやすいマニュアルを使用し、生産者の負担を軽減
平成23年 6月 残留農薬事故からの立ち直りと販路拡大のため、認証に向けた準備開始
平成24年 10月 いちご部会でJGAP認証取得
平成26年 2月 みつば部会、柑橘部会でそれぞれJGAP認証取得
平成28年 2月 平成27年に3団体を統合し、「JAおおいたGAP研究会」としてJGAP認証取得
平成30年 2月 3品目(大葉、白ねぎ、七草)追加し、JGAP認証継続(構成戸数: 66戸 → 78戸)

<構成する1経営体(生産法人)の取組効果>
GAPに取り組み、蓄積したデータの分析や経営改善を持続的に行ってきたことにより、
○収益を約2倍に拡大
9.2万円/10a (H21年度) → 19.6万円/10a (H28年度)
○肥料・農薬費を約6割削減
4.9万円/10a (H21年度) → 2.8万円/10a (H28年度)

<団体事務局の運営効率化>
・いちご、みつば、柑橘の3団体を統一して団体認証を取得することにより、**団体事務局の審査費用は45万円 → 15万円**、審査対象農場数の削減により**農場毎に負担する審査費用は約4万円 → 2万円に削減**。事務局の審査対応に係る作業時間も削減

**九州農政局管内の
GAP取組事例
(国際水準GAPの取組)**

平成30年12月
九州農政局

GAP推進による労働安全確保と産地ブランド形成 に関する戦略的実践活動の留意点

1. 労働安全活動の持続性確保の方策

① 認識できない効果を如何に認識できるようにするか

農場内の施設の整理・整頓がされ、さわやかな気持ちで仕事に臨める、従業員の責任感の高まり、充実した話し合い・相談の実践、経営者と従業員の信頼感の向上、生産した農産物に対する自信等、**目に見えない効果**を経営者・従業員が確認できるようにする。

② GAPの必要性和メリットを如何に認識できるか

持続的な経営実現の上での**GAPの必要性、消費者、取引先から信頼され選ばれるブランド産地づくりにGAPが有効**であること等、**を実感できるようにする。**

③ 費用・労力の負担を如何に減らすか

事務局が実施すべき活動と、支援すべき活動、農家自らが行う活動を明確に識別して、農家の労力負担を軽くする。

④ 農家の労働安全意識・安全対策に取り組む意識を如何に高めるか

小規模農家や高齢農家が比較的多いJAの部会では、組織的な「カイゼン」「QC」活動を展開する。

GAP推進による労働安全確保と産地ブランド形成 に関する戦略的実践活動の留意点

2.実践例から見るGAPの持続性確保の試み

①**JAおおいた**ではJGAP認証を単独認証80,000円/年から、部会ごとの認証40,000円/年にするとともに、3部会をまとめて20,000円/年に、またGAP研究会では平成30年度は会費2,000円、審査費用15,000円まで下げている。

②**鹿児島農林水産物認証制度（K-GAP）**では、個人5,400円、団体1,620円×戸数で実施し、多くの農家が参加しやすくしている。

③**JAおおいた**では、GAPの実践の中で**いちご**のこれまでの2段詰めパック（7規格）から**1段詰めパックへの転換（2規格）**で、**生産者のパック詰めの作業効率を2倍以上**に高めている。また、**GAPで集積した経営データ**に基づく経営改善の実践で収益を約2倍、**肥料・農薬費を6割削減**している。

GAP実践の最終的な目的は労働安全、安全な農産物の生産、地域の環境保全の実現による持続的な産地、農業経営の実現にある。特に、消費者、農産物の卸売業・小売業から**選んでもらえる産地、農業経営**を構築することが大切である。そのためには、**ブランド作り**が大切である。産地・生産者からのメッセージの発信など様々な情報発信が必要となる。

ご静聴ありがとうございました。



自助・共助・公助連携の

実践手段 GAP で

農作業事故の撲滅を目指す

